

不適切なデザインのストーマ手術創

開腹創とストーマ創の距離、配置

ストーマ管理に適するはずのマーキング部位にストーマが造設されても、装具を貼付する範囲内に清潔創が入ると術直後からパウチングが困難になることがあります。たとえば、開腹創とストーマ創が極端に近接している場合や、まったく両者に距離のない開腹創上にストーマが造設されている場合、ストーマサイズが極端に大きくなり、距離を置いたはずの開腹創と近接する場合などで、このようなストーマでは、せつかく装具を貼付するために確保された皮膚の平坦な範囲に、清潔創（縫合糸やドレーン類）によって皮膚の凹凸が生じるため、装具の皮膚保護剤部（面板）が皮膚に追従しません。さらにその清潔創が離開した場合は、面板を皮膚に固着させるために必要な貼付面積がとれないうえ、創部からの滲出液によって、パウチングは困難極まります（**図4**）¹¹⁾。

不整形な形状、不適切な大きさのストーマ創

不整形な形状のストーマは、体位によって形状がよりいびつに変化するため、ストーマの基部の皮膚（ストーマ近接部）まで面板が密着せず、スキントラブルを起こしやすくなります。また、開腹創上にあるストーマは、縦長に不整形な形状となり、連続する清潔創が陥凹して便が流れ込むため、創トラブルを起こし、パウチングが必ず困難になります（**図5**）。このようなストーマは、適切な方法で皮膚切開されたストーマ創のサイズと比較すると、創のサイズがばらつきます。ストーマ創の大きさが50 mmを超える場合は、サイズに見合った装具に限られ、適切な装具がない場合もあります（**図6**）。これらのストーマは、創が治癒した後も長期にわたってパウチングに時間と手間、コストがかかり、ストーマ保有者のQOLを低下させます。

パウチングが可能なストーマを作成するには

パウチングが可能なストーマを造るには、ストーマ粘膜部はもちろんのこと、その周囲の面板を貼付する範囲の皮膚、ストーマ粘膜部と皮膚をつなぐ粘膜皮膚接合部までをひとくくりにしてストーマ手術創を捉える必要があります。パウチングの障害物を作らないによう注意して手術創を造ります。



図4 ストーマ創に清潔創が極端に近接しているストーマ

面板を貼付する範囲に、開腹創、ドレーン創が近接しており、加えて開腹創からは滲出液がみられ、装具装着を一層困難にしている



図5 開腹創上に造られたストーマ

開腹創の真ん中にストーマが造られているため、清潔創と不潔創を別個に管理することができない。また、創の凹凸により装具が密着しないため、便に汚染され開腹創とストーマ創は離開した



図6 開腹創上に造られた5 cmを超える巨大ストーマ

ストーマサイズは62×60 mmと大きく、貼付可能な装具に限られるうえ、6時方向にある開腹創の瘢痕収縮と臍のくぼみのため装具が密着しない

パウチングに適した手術創をデザインする

ストーマ造設術では、ストーマ創の位置、清潔創と不潔創の配置や距離、各創の大きさや形など、手術創をパウチングに適したデザインにすることが重要です。

ストーマサイトマーキング（開腹創とストーマ創の位置）

手始めにストーマ創の位置を決定するストーマサイトマーキングを行います。マーキングは、ストーマ保有者が生涯にわたって最適なストーマ管理を行うために、患者とともに術前から理想的な腹部のストーマ造設部位を選択することですが、術後の創傷管理を円滑に行うために必要な手術創のデザインでもあります。マーキングにより、開腹創とストーマ創の位置、配置、距離が決定されます。手術創のデザインとしてマーキングを行う場合に留意する点は、開腹創、臍、骨突起部などからストーマ創を一定距離（約5 cm）を置いて、パウチングに必要なストーマ周囲皮膚の貼付面積を確保することです。多くの面板の直径が約10 cm前後のため、面板を皮膚に密着させるにはストーマの中心から半径5 cm以内に障害物を入れないことが重要です^{9, 10)}。しかし、腹直筋のど真ん中を貫く位置にストーマを造設すると、腹直筋が狭い例では開腹創とストーマ創の間を5 cmも距離を置くことができない場合があります。事前に医師と相談し、開腹創の縫合を埋没縫合すると縫合糸による皮膚の凹凸がなくパウチングに影響しません¹¹⁾。

ストーマ造設予定のない手術で、術中にストーマ造設が決まった場合でも、開腹創を寄せた状態でマーキングを行ってからストーマを造設するほうが、パウチングに適したストーマとなります（**図7**）。

開腹創以外の清潔創とストーマ創（不潔創）の配置と距離

ドレーン創などの開腹創以外の清潔創の配置は、術中に決定します。マーキングと同様に、清潔創とス

A 腹直筋の幅を確認



B 開腹創を寄せてマーキング



C マーキングの位置が臍や準清潔創から5 cm程度離れているか確認



図7 手術中に行うマーキング